



日本地球化学会ニュース

No. 249 June 2022

Contents

| | |
|-----------------------------------|---|
| 年会のお知らせ | 2 |
| ● 2022年度日本地球化学会第69回年会のお知らせ (2) | |
| ● 2022年度日本地球化学会ショートコースのご案内 | |
| 学会からのお知らせ | 4 |
| ● Goldschmidt 国際会議 2022のお知らせ | |
| ● Geochemical Journal リニューアルのお知らせ | |
| ● Geochemical Journal の創刊～黎明期 | |
| Geochemical Journal 創刊時の思い出 | |
| Geochemical Journal 黎明期の思い出 | |

年会のお知らせ

2022年度日本地球化学会第69回年会のお知らせ(2)

主催：一般社団法人日本地球化学会

共催(予定)：日本化学会，日本分析化学会，日本温泉科学会，日本地質学会，日本質量分析学会，日本鉱物科学会，日本微生物生態学会
変更追加等については年会サイトをご参照ください。

年会サイト：<https://www.geochem-conf.jp/>

本年会に関する諸情報は年会サイトに掲載します。重要な変更や参加者への周知事項が生じた場合も本サイトに掲載しますので，参加者はサイト上の情報をよくお確かめください。

開催形式：現地開催期間中は，現地(対面)およびオンラインによるハイブリッド形式で開催します。ただし，口頭発表(ハイブリッド)，ポスター(オンライン)のように，発表形式や行事の種類により，ハイブリッドで行うものとオンラインのみで行うものがあります。また，現地開催期間の前後合わせて1週間，オンラインでの発表討論期間を設けます。詳しくは下記をご覧ください。

なお，新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては，すべてオンライン開催とする可能性があります。その場合でも，プログラムには基本的に変更はありません。

日程：2022年9月5日(月)～12日(月)

オンラインでの発表討論期間

2022年9月7日(水)～9日(金)

現地開催・ハイブリッド発表期間

2022年9月8日(木)

総会，受賞講演，交流会

2022年9月16日(金)

学生発表賞表彰式・閉会式(オンライン)

現地開催会場：高知大学・朝倉キャンパス(共通教育棟)高知市曙町2-5-1

http://www.kochi-u.ac.jp/outline/campus_map.html

交通：JR高知駅より，①JR土讃線下り15分「朝倉駅」下車徒歩3分，②路面電車(とさでん交通)で約30分「朝倉(高知大学前)」下車すぐ，または③路線バス約25分「朝倉高知大学前」下車

※アクセス方法の詳細については，下記のサイトをご参照ください。

<http://www.kochi-u.ac.jp/outline/access/asakura/>

https://www.kochi-u.ac.jp/outline/acc_asakura_jr.html

宿泊：現地開催会場周辺には宿泊施設はありません。高知市街中心部のホテル・旅館をご利用ください。観光シーズンにつき，早めのご予約をお勧めします。

発表方式：基盤/特別セッションには，口頭発表とポスター発表があります。また，口頭発表，ポスター発表のすべてについて，ウェブ上のコメント機能を用いたオンライン発表討論を行います。そのため，基盤/特別セッションの口頭発表，ポスター発表のすべてについて，発表資料をサイトにアップロードすることが必須となります。発表資料のアップロードについては別項をご覧ください。

(1) 口頭発表

現地(対面)とオンラインを結ぶZoomセッションによるハイブリッド方式で実施します。現地参加者は会場備え付けのPCで，オンライン参加者は各自のパソコンでZoomセッションに参加し，発表資料を共有した上で口頭発表を行っていただきます。

また，あらかじめ年会発表サイトにアップロードした資料(口頭発表本番で使用するものと同じである必要はありません)についてウェブ上のコメント機能を用いたオンライン発表討論も行えます。

(2) ポスター発表

オンライン方式のみで実施します。あらかじめ年会発表サイトにアップロードした資料についてウェブ上のコメント機能を用いた発表討論を行います(上記の口頭発表の方式からZoomセッションによる発表を除いたものに相当します)。

発表セッション：

【基盤セッション】

G1 大気とその境界面における地球化学

G2 環境地球化学・放射化学

- G3 海洋の地球化学
- G4 初期地球から現在までの生命圏の地球化学
- G5 古気候・古環境解析
- G6 宇宙化学：ダストから惑星，生命へ
- G7 素過程を対象とした地球化学
- G8 地球深部から表層にわたる元素移動と地球の化学進化
- G9 地球化学のための最先端計測法の開発，および，境界領域への挑戦

【特別セッション】

- S1 地球化学で拓く地球掘削科学
- S2 太平洋プレートの変遷史
- S3 希土類元素の宇宙化学・地球化学

学生発表賞：きわめて優れた口頭・ポスター発表を行った日本地球化学会学生会員に授与します。表彰式は閉会式の際行います。学生発表賞を希望される学生会員は，発表申込時にエントリーしてください。学生発表賞を希望される方で，学会入会手続きがまだの方は，速やかに入会手続き（書類提出＋入金）を済ませてください。

発表申込：例年と同様，発表申込と発表要旨提出を同時に行います。要旨原稿の提出を行わないと発表申込は完了しません。申込は年会サイトからのみ受け付けます。発表申込・要旨提出は，6月15日（水）14時受付開始，7月20日（水）17時メ切を予定しています。メ切日時は延長しません。タイトル・抄録・要旨原稿はメ切日まで修正可能ですが，メ切日以降は一切修正できなくなります。要旨のテンプレート（Word）を年会サイトからダウンロードし，書式に従って要旨を作成し，PDFファイルとして提出してください。発表申込の際に，200～400字程度の和文・英文抄録を入力します。これらは，J-STAGEに作成される要旨集のページ（日本語・英語）に抄録として掲載されるので，注意して作成してください。また，抄録の他にもJ-STAGEでの検索用にテキストを入力する欄がありますので，要旨の本文を入力してください。発表申し込みに関して不明な点は，年会事務局にメールでお問合せください。メ切直前になると対応できない可能性がありますので，余裕を持ってお問い合わせください。

発表資料のアップロード：基盤／特別セッションの口頭／ポスター発表資料（オンライン討論用）は，PDFファイルとして8月24日（水）までにアップロードしてください（必須）。希望者にはPDFファイルに加え，動画ファイル（mp4）もアップロードできるようにします。アップロードの方法については，発表申込者に事前にお伝えします。

プログラム：発表プログラムは，発表申込メ切後作成し，8月上旬をめどに，年会サイト上で公開予定です。

参加申込：年会サイトから申し込んでください。6月15日（水）14時から8月24日（水）17時まで受け付けます。

参加登録費：

| 一般会員 | 学生会員 | 会員外一般 | 会員外学生 |
|--------|--------|--------|--------|
| 4,000円 | 1,000円 | 8,000円 | 2,000円 |

※「会員」は日本地球化学会及び共催学会の会員を指します。

学生のうち，聴講のみの学部生については参加登録費は無料です。

現地参加者も，オンライン参加者も，参加登録費は同じです。

支払方法：年会サイトから，クレジットカードによるオンライン決済で行ってください。クレジットカードによる支払いが困難な場合は，年会事務局にメ切の1週間前までにお問い合わせください。現地開催会場では当日の参加登録（金額は事前登録者と同じ）を現金に限り受け付けます。

要旨集：要旨集の印刷・配布は行いません。プログラムおよび要旨は年会サイトで公開しますので，それをご利用ください。

協賛企業：現地開催会場での企業展示は行いませんが，協賛いただける企業様については，年会サイトに企業ロゴや関連情報へのリンクを掲載し，オンラインで会員への周知などが行えるようにいたします。お早めに年会事務局にお問い合わせください。

夜間集会：オンラインで9月7日（水）に実施する予定です。詳細は年会サイトに掲載します。

総会：9月8日（木）午後に開催し，現地／オンラインのハイブリッド方式またはオンライン方式で

行う予定です。

受賞講演会：9月8日(木) 午後の総会終了後に行います。現地／オンラインのハイブリッド方式またはオンライン方式で行う予定です。

交流会：現地参加者の親睦を深める「交流会」(飲食無し、無料)を9月8日(木) 午後の受賞講演会後に予定しています。交流会の様子はオンラインでも発信する予定です。

閉会式：9月16日(金)にオンラインで開催します。学生発表賞の表彰式等を行います。詳細は年会サイトに掲載します。

新型コロナウイルス感染症への対応：現地開催会場では、参加者に高知大学のガイドラインに沿った感染拡大防止策を取っていただきます。また、高知大学の基準に照らして現地開催が困難と判断された場合は、年会を完全オンライン開催に切り替えます。交流会を除き、実施に現地参加が不可欠なプログラムは無いので、完全オンライン開催となった場合でもプログラムには基本的に変更はありません。なお、完全オンライン開催への切り替えに伴う交通や宿泊のキャンセルに係る経費を学会が負担することはできませんので、あらかじめご承知おきください。

2022年度年会事務局：

電子メール：2022LOC@geochem.jp (@を半角に変えて送信してください)

石川剛志(委員長, JAMSTEC),

村山雅史(高知大),

若木重行, 中田亮一(以上JAMSTEC),

野口拓郎, 長谷川精, 西尾嘉朗(以上高知大)

2022年度日本地球化学会ショートコースのご案内

日程：2022年7月31日(日) 13:00開始予定

開催形式：オンライン

詳細は、ショートコースのホームページからご覧ください。内容の変更や参加者への周知事項が生じた場合も本サイトに掲載いたします。

<https://gsjevent.s2y.jp/2022/>

今年度のショートコースは、昨年に引き続き、オンライン開催となります。

桑谷立先生(JAMSTEC)、角野浩史先生(東大)、羽場麻希子先生(東工大)、ロバートジェンキンス先生(金沢大)の4名の講師の先生をお招きし、地球化学データの解析からキャリアパスまで地球化学研究の

新たな方向性の探求や地球化学研究者の面白さを再認識できるプログラムを企画しています。また、講師の先生を含めたオンライン交流会も予定しています。

会員の皆様には無料でご参加いただけますので、ぜひ、参加をご検討ください。

2022年日本地球化学会ショートコース運営委員会
(E-mail: gsj2022event@gmail.com)

板野敬太(秋田大)・伊藤 茜(関西学院)・鹿児島涉悟(富山大)・窪田 薫(JAMSTEC)・八田真理子(JAMSTEC)・日比谷由紀(東大)・山田明憲(豊島電気)(五十音順)・福山繭子(企画幹事, 秋田大)

学会からのお知らせ

● Goldschmidt国際会議2022のお知らせ

今年のGoldschmidt国際会議は、2022年7月10日(日)から15日(金)の期間にハイブリッド(対面+オンライン)で開催されます。残念ながら過去2年間はオンラインのみの開催となっていましたが、本年は待ちに待った対面を含めた開催となりました。対面開催は、米国ハワイ州オアフ島・ホノルル市にあるハワイコンベンションセンターが会場となります。Goldschmidt国際会議は、地球化学に関連する多くの分野を網羅した、参加者数が最大規模の学会です。ホノルルの海や景色で気持ちを解きほぐしながら、もしくはオンラインで活気ある議論に加わりながら、地球化学にどっぷりと浸かる良い機会となるのではないのでしょうか。日本地球化学会(GSJ)は本会議を共催しているため、GSJの会員は参加登録費が非会員より安く設定されている、といった特典があります。現地地のご参加の方には、本会議のほかに、オプションとして7つのフィールドツアーも予定されています(別途、参加登録が必要)。まずはGoldschmidt国際会議のホームページ(<https://conf.goldschmidt.info/goldschmidt/2022/meetingapp.cgi>)を覗いていただき、会議の概要をご覧ください。例年同様、会場内にGSJブースが設置されますので、皆様の交流や憩いの場などにご利用ください。

早期参加登録締め切り：5月31日(火)

早期参加登録の参加費(対面：一般\$650シニアおよび学生\$375, オンライン：一般\$450シニアおよび学生\$250)

早期参加登録締め切り後の参加費（対面：一般 \$ 750 シニアおよび学生 \$ 475, オンライン：一般 \$ 550 シニアおよび学生 \$ 350）

Goldschmidt 国際会議：7月10日（日）～15日（金）

問合せ先：広報委員会 prc@geochem.jp

（広報委員 Goldschmidt 会議担当 長島佳菜, 井尻 暁, 広報幹事 角野浩史）

● Geochemical Journal リニューアルのお知らせ

2022年1月、本学会の英文誌 Geochemical Journal がリニューアルされました。本学会が J-STAGE を利用して Geochemical Journal 論文を公開しています。HP も一新されました。是非、お訪ねください。

<https://geochemical-journal.jp/>

Geochemical Journal は、20年以上にわたってテラ学術図書出版から出版・販売されてきましたが、2021年12月末でテラ学術図書出版との契約が終了しました。これまで全面的にご協力いただいたテラ学術図書出版には深く感謝いたします。

さて、リニューアルに伴う最大の変更点は、完全なオープンアクセスジャーナルとして生まれ変わったことです。これは、世界中の誰もが Geochemical Journal の記事を読み、ダウンロードできるようになることを意味します。これまで以上に多くの人が Geochemical Journal の論文を目にするのを期待しています。ただし、2020年、2021年の非オープンアクセス論文については、2年を過ぎてからフリーアクセスとなる予定です。

また、論文を掲載する際には、著者に Article Processing Charge (APC) が課されます。当初は、科研費および本学会からの補助を受け、2022年6月末までの投稿に対しては特別割引、2024年12月末までの投稿に対しても割引を設けます。上記の新 HP に詳細が記されていますのでご覧ください。学生会員（筆頭かつ corresponding author）は、2023年12月末までの投稿に対して APC を無料とします（投稿時に申請が必要です）。また、特集号、Invited Review などに対する APC の割引についても検討中です。2025年1月以降も会員には常に割引がありますので、是非、ご利用ください。

アクセプトされた論文は、版組前の著者最終原稿を accepted paper のページで早期公開します。これまでウェブ公開に3-6カ月かかっていましたが、1週間

程度で公開されることを目指しています。その後、版組された論文が J-STAGE で公開され、新 HP の issues のページから見に行くことができます。

さらに、新 HP では各論文に著者から提供された graphical abstract を示します。すでに早期公開ページで graphical abstract を見ることができます。

2021年に投稿された論文に対する投稿から最終決定までの平均期間は2.5カ月であり、地球科学系雑誌の中では最も査読の早い雑誌のひとつとなりました。新 HP トップページの右にあるように、2020年のインパクトファクター (IF) は1.561となっています。

ジャーナルとして重要な Instructions to Authors (ITA) は、JST ジャーナルコンサルティングプログラムのサポートで、INLEXIO 社と共同で作成しました。投稿に必要な情報が得られますのでご参照ください。

なお、版組、pdf ファイル作成、J-STAGE へのアップロードなどの作業は、中西印刷株式会社に委託します。論文の新しいレイアウトは、中西印刷株式会社の担当者とともに作成しました。HP のデザイン、作成は株式会社ノイエカと協力して行いました。今後の HP の維持管理もノイエカに委託します。

リニューアルした Geochemical Journal にご期待ください。多くの方が投稿したくなるような雑誌を目指して今後も進化させたいと思います。ご意見があればぜひお寄せください。(gj@geochem.jp)

今後とも Geochemical Journal をよろしく願います。

Geochemical Journal 編集長 鈴木勝彦
Geochemical Journal 編集委員会・出版委員会

● Geochemical Journal の創刊～黎明期

本学会の英文誌 Geochemical Journal (GJ) は、1966年12月、和文誌「地球化学」に先駆けて創刊されました。Vol. 1, No. 1には北野康先生、増田彰正先生、島正子先生、酒井均先生、小穴進也先生という錚々たる諸先生方の原稿が掲載されています（下左図：GJ表紙）。創刊時の Executive Editor は小穴先生、Managing Editor は北野先生、そして、Associate Editors には日本の地球化学を代表する著名な先生方の名が見られます（下右図：GJ表紙裏）。GJ 創刊前後の本学会会長・評議員など関係者の果たされた役割は大変大きなものであったと認識しております。GJ

注1 多分、父です。

注2 Dr. Deeveyだけではなく。岡田美代さん、角谷静夫先生、その他大勢の多様な分野の方々が親しくして下さいました。

注3 名古屋市中区にある印刷会社

● Geochemical Journal黎明期の思い出

Geochemical Journal (GJ) は、4年生になって名古屋大学理学部地球科学科地球化学講座(小穴研)に進級した時から、研究室の空気のように存在した。研究成果は他人に知ってもらってナンボである。それには、できるだけ多くの人に論文を読んでもらうことが第一歩になる。英語は日本語より広く読まれる。そう納得してはいたものの、英語の苦手な自分には、英語の読み書きが一番の苦痛であった。しかし、地質や地球物理に無い学術情報の基点が地球化学講座にあることは、なんとなく誇らしい気持ちでもあった。

GJの持つ強さについては、学生の時から、杉崎隆一先生からよく聞かされていた。杉崎先生がポストドク時代を過ごされたYale大学でもカリフォルニア工科大学でも、図書室に日本の学術誌はたくさん開架されていた。しかし、それらの雑誌の位置は長く変わらず、雑誌を手にする人がほとんどいないことを物語っていた。なぜか!表紙に印刷されている掲載論文のタイトルは、和文と英文が混在し、“見てみたい”との意欲を削ぐバリアーとして作用していたのでは?という。

Masuda and Matsuiによる有名な論文“The difference in lanthanide abundance pattern between the crust and the chondrite and its possible meaning to the genesis of crust and mantle”がGCAに印

刷されたのは1966年である。しかし、この論文には“Received 19 June 1963”の日付しか記されていない。画期的アイデアを証拠立てて述べたこの論文は、受付後3年間眠らされていた訳である。理不尽な扱いを無くすには、世界に通用する英文の学術誌を日本から出す以外の道はない。増田彰正先生は、固く心に決められたと思われる。

それぞれの悔しいご経験から、杉崎先生と増田先生はGJに強く関わられることになった。杉崎先生は、小穴編集長のManaging EditorとしてGJを支えられ、増田先生は、編集長として“一流のGJ”を目指された。杉崎先生の確信として、「GJは、特に外国での評価が高かった。なぜなら、英語圏の論文にも増して、GJの英文が素晴らしいので、まずはそこからの信用度がぐっと高まった。それは、小穴先生が全体の英文に目を通され、格調高い英文にされたことによる。」と聞く。増田先生は、たくさんの著名な地球化学者に手紙を書かれ、投稿を誘われた。1975年にMasonさん、1976年にAhrensさん、1978年にTH Greenさん、1979年にAllègreさんとRingwoodさん、などなど、著名な研究者のユニークな論文がたくさん載っているが、これらは増田先生の誘いに応じた論文ではなかろうか。

こんなことが出来た理由の一つは、「ある程度長い期間、編集に携わった」ということがあるかもしれない。編集長のカラーが出せたわけである。これからも編集長には、ぜひぜひ、ちょっとだけ長くGJと遊んでいただけたら…というのは、年寄りの甘い希望だけではないような気がします。

名古屋大学名誉教授 田中 剛

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

地球化学に関連した研究集会，書評，研究機関の紹介などの原稿をお待ちしております。編集の都合上，電子メールでの原稿を歓迎いたしますので，ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2022年9月頃を予定しています。ニュース原稿は8月中旬までにお送りいただくよう，お願いいたします。また，ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者（日本地球化学会）

中川書子
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻
Tel: 052-789-3464; Fax: 052-789-3436
E-mail: news-hp@geochem.jp

角野浩史
〒153-8904 東京都目黒区駒場4-6-1
東京大学先端科学技術研究センター
Tel: 03-5452-5096; Fax: 03-5452-5096
E-mail: news-hp@geochem.jp